保護者向け学校通信

創る

もうすぐ生まれくる新しい命
「がんばれ」と願いながら

令和８年
１０月２１日（第１９号）
学校長　村松　章史



いのちのあたたかさ、不思議さ、重さを感じ、自分の生き方を考える

１０月９日　思春期体験学習（赤ちゃん抱っこ体験）



１０月９日、３年生を対象に思春期体験学習を行いました。これは峡南教育事務所が主催し峡南地域の全中学校で行われている取組で、

①生命誕生のしくみを知り、いのちの大切さへの意識を高める。
②親になることの意味と責任を考える。
③支え合いの中で子どもを育てることを考える。　これらをねらいとして毎年実施しています。当日は、午前中に町の子育て支援課の保健師や助産師の方からの講義を受けたり、妊婦体験をしたりしながら学習を深め、赤ちゃんとのふれあい体験に備えました。午後には、赤ちゃんとそのお母さん６組を招き、実際に赤ちゃんを抱っこしたり、お母さんに質問したりしながら、いのちの重みやあたたかさを実感しました。自分の腕の中で赤ちゃんが泣いたときの緊張、腕の中ですやすや眠ってしまったときの幸せな気持ち・・・。終始優しい表情で赤ちゃんと過ごしていた生徒たちでした。自分自身もたくさんの人に守られながら大きくなってきたことを感じ、実際に親になったときのことを想像してくれたことと思います。

以下、事後学習の記述より





◆人が一人産まれてくるまでの確率が250兆分の１と聞いて、思っていたよりも少なくて、もしかしたら今となりにいる友だちにも出会っていなかったのかも知れないなと思った。赤ちゃんは思っていたよりも大きくて、重くて、かわいかった。抱っこするのは難しかったけど、泣かないでいてくれてうれしかった。妊婦さんの体験はすごく大変で、日常の生活がこんなに大変だなんて思ってなかった。お母さんたちはこれを経験していてすごくかっこいいなって思った。赤ちゃんを育てるのは大変だけど、笑った顔を見たら疲れがなくなるって言っていて、お母さんたちはすごいって感じた。普段体験できない貴重な体験ができてうれしかった。いろいろ大変なことを知ることができたから、何か手伝うことができればうれしい。



◆いくつか体験させてもらって、とても貴重な機会をもらえてすごくありがたかったです。普段関わりの少ない保健師さんや助産師さんから直接、生命の話や赤ちゃんの詳しい話を聞いて、とても興味深かったし、これからにつながる大切なことを知れてよかったです。赤ちゃん抱っこで、赤ちゃんやお母さんとコミュニケーションしてみて、とても幸せでした。赤ちゃんが泣いても、お母さんが抱っこすると泣き止んで、お母さんの安心感はやっぱり違うんだなと思いました。命の大切さを感じることができたので、自分や周りの命をさらに大切にしようと思うきっかけになった。





